

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 2 月 16 日 (2006.2.16)

【公開番号】特開 2003-219087 (P2003-219087A)
 【公開日】平成 15 年 7 月 31 日 (2003.7.31)
 【出願番号】特願 2002-369560 (P2002-369560)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 1/00 (2006.01)

B 4 1 J 29/38 (2006.01)

G 0 3 G 21/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 1/00 1 0 6 C

B 4 1 J 29/38 Z

G 0 3 G 21/00 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 12 月 20 日 (2005.12.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 システム内の交換可能な要素の寿命終了決定を判断するための方法において、

システムのサイクルを公称カウントとして受け取る段階と、

復旧状態に関して前記システムをモニターする段階と、

前記復旧状態にある場合は復旧カウントを提供する段階と、

前記公称カウント及び前記復旧カウントを補足診断カウンタへ集計する段階とから成ることを特徴とする方法。

【請求項 2】 文書処理システム内のサービス頻度の高い品目の寿命終了決定を判断するための方法において、

文書処理システムのサイクルを公称カウントとして受け取る段階と、

少なくとも 1 つの重み付け係数を前記公称カウントへ適用して少なくとも 1 つの重み付きカウントを作り出す段階と、

復旧状態に関して前記システムをモニターする段階と、

前記復旧状態にある場合は復旧カウントを提供する段階と、

前記 1 つ又はそれ以上の重み付きカウント及び前記復旧カウントを補足診断カウンタへ集計する段階とから成ることを特徴とする方法。

【請求項 3】 文書処理システム内のサービス頻度の高い品目の寿命終了決定を判断するための方法において、

前記文書処理システムの各サイクル毎に、公称カウンタを公称カウント分だけ増加させる段階と、

少なくとも 1 つの重み付け係数を前記公称カウントに適用して重み付きカウントを作り出す段階と、

復旧状態に関して前記システムをモニターする段階と、

前記復旧状態にある場合は復旧カウントを提供する段階と、

スタートアップ状態に関して前記システムをモニターする段階と、

前記スタートアップ状態にある場合はスタートアップカウントを提供する段階と、

サイクルダウン状態に関して前記システムをモニターする段階と、
前記サイクルダウン状態にある場合はサイクルダウンカウントを提供する段階と、
前記公称カウント、前記重み付きカウント、前記復旧カウント、前記スタートアップカウント及び前記サイクルダウンカウントを補足診断カウンタへ集計する段階とから成ることを特徴とする方法。